

## 生命科学研究独立アプレンティスプログラム

(実施期間：平成 20～24 年度)

実施機関：大阪大学（代表者：鷲田 清一）

### 課題の概要

生命科学分野において、強い独立心と意志を持ち、独創的かつチャレンジングなテーマを展開できる若手研究者を、国際公募により特任准教授として採用し「独立研究アプレンティス（見習い）」として位置付け、アプレンティス研究者、それを個別に支援する親講座及び両者から独立した生命科学系教員による独立支援運営委員からなるコンソーシアムを構築する。独立させるが孤立させることなく、競争的ではあるが安心して研究に専念できる環境を提供する。業績と研究室運営能力の評価に基づき、テニユアである独立准教授あるいは教授として採用する。単に若手研究者を育成するだけでなく、大学院生や研究員に対して、新たな魅力あるキャリアパスを提示し、また、本プログラムによる「グローバル若手研究者フロンティア研究拠点」（平成 18 年度～）とも積極的な連携を行い、全学的なテニユアトラック制度の整備に努める。

#### （1）総合評価（所期の計画と同等の取組が行われている）

生命科学分野を有する 6 部局が参画するコンソーシアム型テニユアトラック制を海外での研究経験のある若手研究者の受入れ制度として活用する特色ある提案である。12 名の若手研究者を採用し、自立的な研究環境の整備を重点にダブルメンター制を採る等計画がよく練られており、テニユアポストの準備率を大幅に高めていることは評価できる。機関全体をカバーする「テニユアトラック推進室（仮称）」を設立し、新規採用教員の約 20%をテニユアトラック制によって採用する計画の着実な進展が期待できるなど、所期の計画と同等の取組が行われている。テニユアトラック制を経て採用したテニユア教員に独立した研究環境を継続的に提供する以外に一般的なテニユア教員との間の差別を行わないことは妥当であるが、今後、国際的リーダーとして世界に羽ばたくテニユア像の実現に向けて、外国籍研究者の応募を増やすための国際公募の工夫と機関全体への展開に向けての更なる計画の具体化を期待する。

<総合評価：A>

#### （2）個別評価

##### ①国際公募・選考・業績評価

テニユアトラック教員全てを海外でのポストドクターの経験を持つ広範で多様な人材として採用していること、直前に自機関に所属していた者の採用比率が低いこと等は評価できる。一次・二次審査を各部局で行い、最終審査では各部局からテニユアトラック教員候補者の推薦を受けて、外部委員も参加する委員会で共通の指針を用いて採否を決定する体制・プロセスは適切である。しかし、帰国する若手研究者の優先的採用を標榜していることは評価できるものの、外国籍研究者の応募者数が極めて少ないことを踏まえ、国際公募の方法等について再検討を行い、外国籍研究者、女性研究者を含めた多様かつ優れた人材を採用するための施策を実施することを期待する。

##### ②人材養成システム改革（上記①以外の制度設計に基づく実施内容・実績）

参加 6 部局を統括し、部局に対する拒否権を有する独立支援運営委員会を機能させ、テニユアトラック教員に独立した研究スペースを提供していること、また複数のテニユアトラック教員が

所属する部局では正副メンター教員をたすき掛けに配置し、メンター教員の評価・審査への関わり方等を定めることによって適切な距離を保った自立的環境を構築していることは高く評価できる。また、テニュアトラック教員が学部学生に対する講義や大学院生に対する研究指導を経験し、外部資金獲得のための指導や英語による公開シンポジウムを開催するなど、テニュアトラック教員が教育に携わり、また、連帯できる仲間意識の環境を創り出す取組等についても評価できる。なお、テニュアトラック教員が的確な科学者倫理を具備するための施策を立案・実施し、テニュア審査基準へ反映させることを期待する。

### ③人材養成システム改革（上記①以外の制度設計に対するマネジメント）

海外でのポストドクター経験者等の受皿的なシステムとして着実な成果を挙げ、また、テニュアトラック教員がライフイベントに遭遇した際の休業期間に応じて任期やテニュア審査を延長する制度としていることは評価できる。また、平成 18 年度に大学院工学研究科という部局レベルで採択されたもう一つのテニュアトラック制の取組である「グローバル若手研究者フロンティア研究拠点」との整合を図り、機関全体を対象としたテニュアトラック制を導入するための仕組みづくりの方向性が定まりつつある中で、本取組の機関全体レベルでの適切なマネジメントを期待する。

### ④実施期間終了までの進め方

平成 23 年度から機関全体にテニュアトラック制を導入することが予定されており、本課題によるテニュアトラック制の取組が、人材育成推進本部内に設置され機関全体のテニュアトラックポストの審査・管理を行う「テニュアトラック推進室（仮称）」に所属することによって継続的に実行される計画は評価できる。また、参加部局の定員ポストを活用してテニュアトラック制を運用する方針は他機関におけるテニュアトラック制導入の範となるものである。さらに、中間評価・テニュア審査の基準の英語版も準備中であり、複数の外国人評価委員による適切な審査・選考の実施を引き続き期待する。また、テニュア準備率を 83%まで引き挙げた努力は評価でき、引き続き実施期間終了までに 100%を目指す努力を期待する。

### ⑤実施期間終了以降の継続性・発展性

「テニュアトラック推進室（仮称）」が設置されることによる機関執行部の直轄運営体制を基盤にしながらも、部局との連携を考慮した体制の構築によるテニュアトラック制の継続・発展が目指されており、人材養成システム改革の機関全体への拡大と定着化が期待できる。人件費と研究費の一部を運営費交付金によって充当する計画であるが、更に十分な研究費を確保するため詳細な計画の具体化を進めることを期待する。

## （3）評価結果

総合評価	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革（制度設計に基づく実施内容・実績）	人材養成システム改革（制度設計に対するマネジメント）	実施期間終了までの進め方	実施期間終了以降の継続性・発展性
A	a	s	a	a	s